

おいしい米を今年も

海津皮切り、田植え始まる

県内有数の米どころ・海津市で、早くも田植えが始まった。西美濃農業協同組合（JAにしみの）によると、県内で最も早い。11日は同市海津町古中島の上組営農組合の水田で、生産者が田植え機を使い早生品種「あきたこまち」の苗を植えていった。収穫は8月上旬、初出荷は同月中旬を見込む。

（浜田悠）

市内では25軒ほどの農業法人と生産者が、あきたこまちを栽培している。作付面積は計約340畝。昨年は約99

0㌔を全国農業協同組合連合会県本部（JA全農岐阜）に出荷したほか、JAにしみのの直売所「ファーマーズマー

ケット」で販売した。今年はJA全農岐阜に約1500㌔の出荷を目指す。

上組営農組合は約8・3畝で栽培し、代表理事の後藤嘉夫さん（70）ら3人が手際よく作業を進めた。今月下旬にかけて田植えをする一方、中東情勢の緊迫化に伴う原油高への懸念もあるという。後藤さんは「物価高に加えて農機具に使う軽油の値段も上がった。不安もあるが、品質の高いコメを作りたい」と話した。



田植え機で「あきたこまち」の苗を植える後藤嘉夫さん
＝海津市海津町古中島